

## 基本施策 10 高齢者福祉の充実

【施策統括課：高齢者支援課

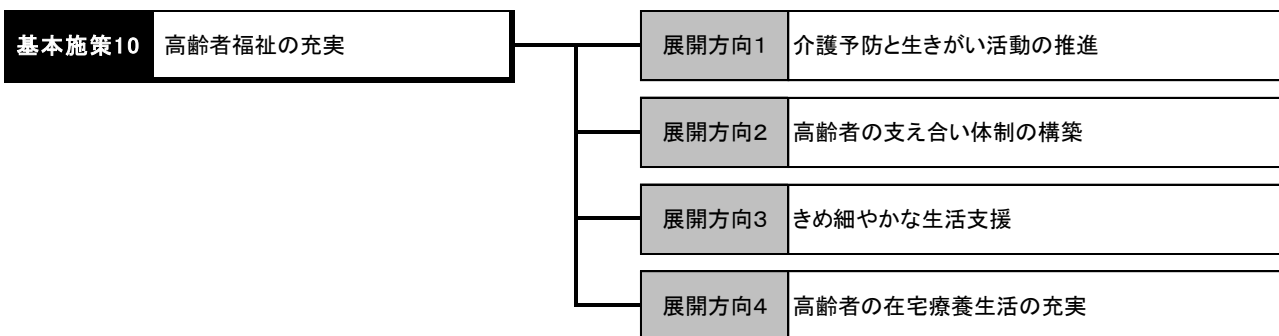
主な関係課：地域包括ケア推進担当、予防・健康担当、福祉総務課】

### ＜現状と課題＞

- 我が国全体が世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎えている中、平成 24(2012)年 9 月には、高齢社会対策基本法によって政府に作成が義務付けられ、政府が推進する高齢社会対策の中長期にわたる基本的かつ総合的な指針である「高齢社会対策大綱」が閣議決定されています。
- 今後、高齢化の進展に伴って認知症高齢者や単身高齢者の増加が予測される中、国では、団塊の世代の全てが 75 歳以上となる平成 37(2025)年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していくとしています。
- これにより、各市区町村では平成 37(2025)年に向けて、3 年ごとの介護保険事業計画の策定・実施を通じ、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを構築することが求められています。
- 国勢調査によると、平成 12(2000)年以降、国立市の単身高齢者世帯と高齢者のいる夫婦のみ世帯は、いずれも一貫して増加傾向にあり、平成 22(2010)年では前者が 3,287 世帯、後者が 2,898 世帯、対平成 12(2000)年比でそれぞれ 2.5 倍(1,991 世帯増)、1.8 倍(1,325 世帯増)に大きく増加しています。
- また、国立市においては、平成 21(2009)年度以降、要介護・要支援者数も一貫して前年度を上回る状況が続いています。平成 25(2013)年度の認定者数は 2,959 人、サービスの給付額は 45 億 9,100 万円であり、平成 21(2009)年度と比べると、それぞれ 1.3 倍(662 人増)、1.4 倍(13 億 4,800 万円増)となっています。
- 国立市においては、平成 37(2025)年には、4 人に 1 人が高齢者になることが見込まれています。今後 10 年の間に、高齢になっても、地域活動への参加や生きがい就労を通じて、元気で健康的な生活を送り、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるような環境を整えていくことが求められます。そのためには、シルバー人材センターをはじめとする関係機関との連携を強化しつつ、住民主体の取組を支援することで社会参加の機会の拡大を図る必要があります。
- 今後、高齢者の増加が予測される中、高齢者に対する虐待が懸念されています。こうした高齢者に対する虐待を防止するため、高齢者を養護する家族への支援、介護サービスを提供する事業所への指導等に取り組む必要があります。
- また、高齢者が自ら介護予防に努めるとともに、病気や認知症になっても、住み慣れた地域で、尊厳を保ちながら暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向けた取組を計画的に推進する必要があります。

## <施策の目的及び体系>

高齢者が生きがいを持ち、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるように環境を整えるとともに、病気や認知症になっても住み慣れた地域で最後まで安心して暮せるまちを目指します。



## <展開方向1：介護予防と生きがい活動の推進>

### 【目的】

高齢者が自らの健康管理に努め、予防的な観点を生活に取り入れながら、いきいきと暮らせるように支援します。

### 【手段】

- ◆元気な高齢者も対象とした生きがい活動ともなる事業を中心に、介護予防事業を推進します。
- ◆高齢期の生活や健康の保持について学びあうことができる環境を整えます。
- ◆高齢者のサロン活動や生きがい就労を支援します。

### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
75歳以上の要介護認定率	%	75歳以上の要支援・要介護認定者数/75歳以上高齢者数	33.3 (H26年)	31.3	29.7
自主活動グループ数(活動場所)	箇所	市が把握する高齢者の自主活動グループ数	46 (H26年)	62	78

## <展開方向2：高齢者の支え合い体制の構築>

### 【目的】

高齢者の孤立を防止し、社会参加を通じて、つながりのある支え合い体制を構築します。

### 【手段】

- ◆高齢者の見守り活動等により、元気な高齢者が、周り的高齢者を支える仕組みづくりを推進します。
- ◆生活支援の基盤としてのシルバー人材センターとの連携を強化します。

### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
高齢者の就労率	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(収入のある就労者/調査回答者数)	25.8 (H26年)	26.0	26.0
高齢者の社会参加率	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(見守り支援活動参加者数/調査回答者数)	7.6 (H26年)	12.6	17.6
孤立化のリスクが高い高齢者の割合	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(閉じこもりリスクのある高齢者数/調査回答者数)	6.5 (H26年)	6.0	5.5

## <展開方向3：きめ細やかな生活支援>

### 【目的】

高齢者やその家族が安心して生活できるよう支援します。

### 【手段】

- ◆生活、介護、医療等の相談を総合的に受け、きちんと支援につながるようきめ細やかに対応します。

### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
高齢者からの新規相談対応件数	件	同左	2,997 (H26年)	3,150	3,270
市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合	%	国立市市民意識調査	平成28(2016)年度中に実績値を把握し、目標設定予定。		

## <展開方向4：高齢者の在宅療養生活の充実>

### 【目的】

加齢に伴い、病気や認知症になっても、安心して地域で暮らせるようにします。

### 【手段】

- ◆医療と介護、保健が連携した在宅療養の支援体制を整備します。
- ◆認知症の専門対応と市民啓発を行います。

### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合	%	施設未利用の要介護認定被保険者数／要介護認定被保険者数	80.5 (H27年)	82.0	82.7